

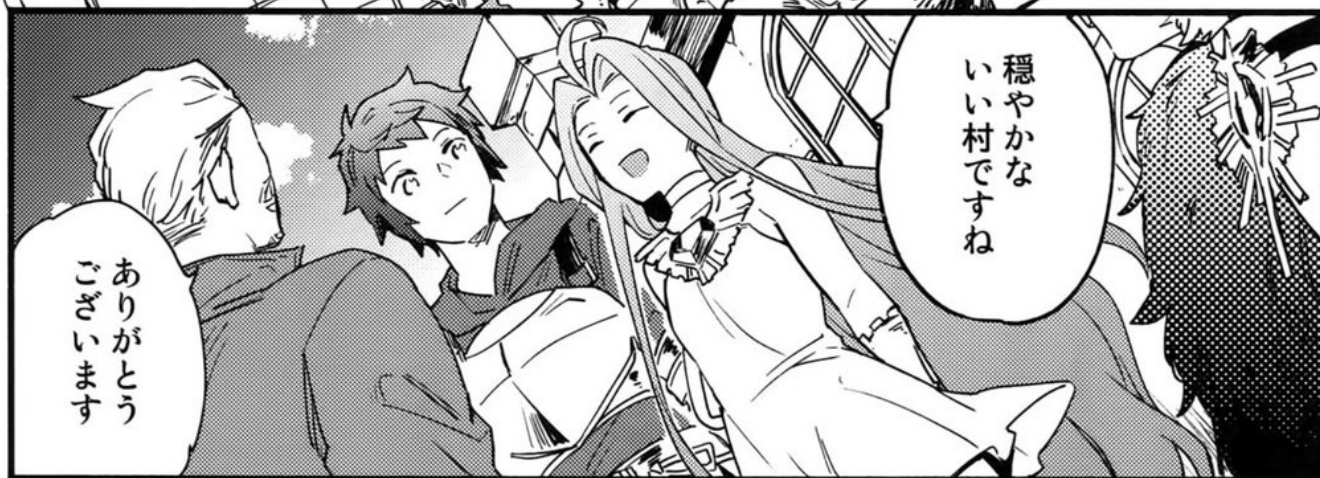
その
手
が
握
む
もの

R-18

VANE × PERCIVAL



——ガエネロン島



隠して
なんて
ないもん！

これ！

あらら…

この島の
守り神として
言い伝えられている
星晶獣のことです

誠実さを好み
嘘をつく者を
焼き尽くして
しまうとか…

マルコキアス様
というのは…？

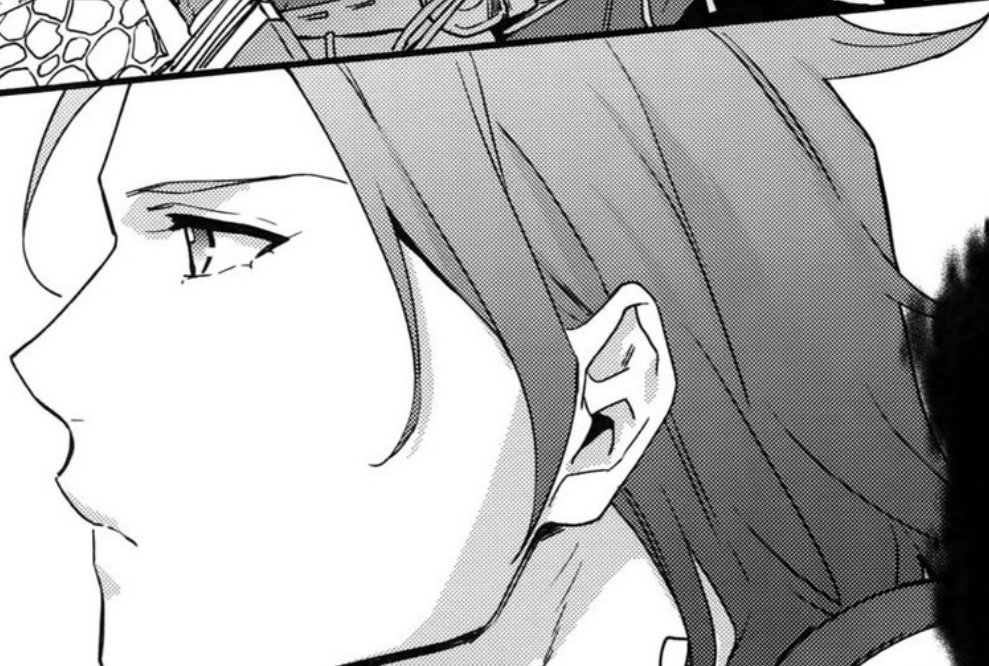
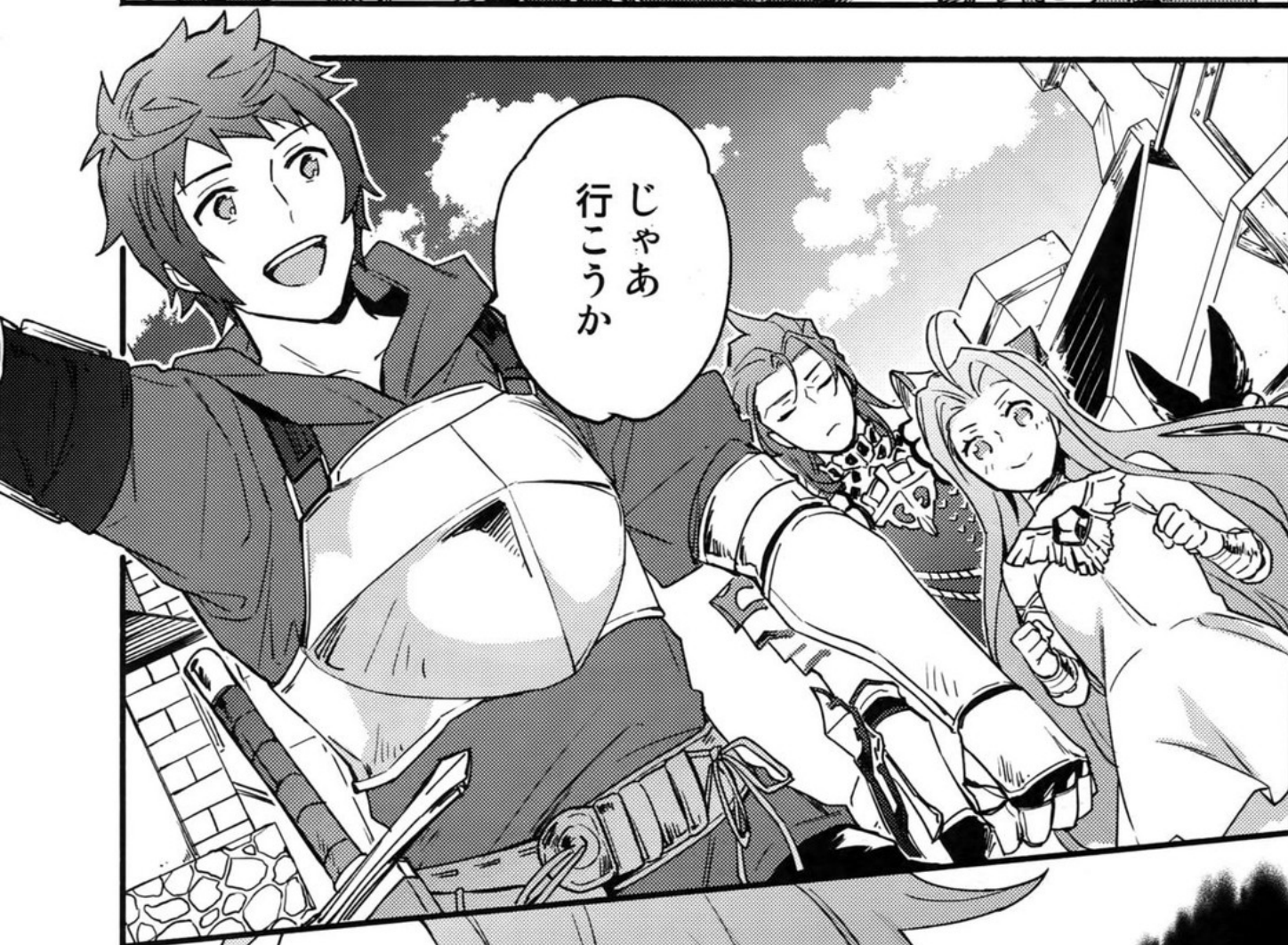
今は眠りに
つかれている
そうなのですが

先日
その祠付近から
火が上がったのが
見えて…

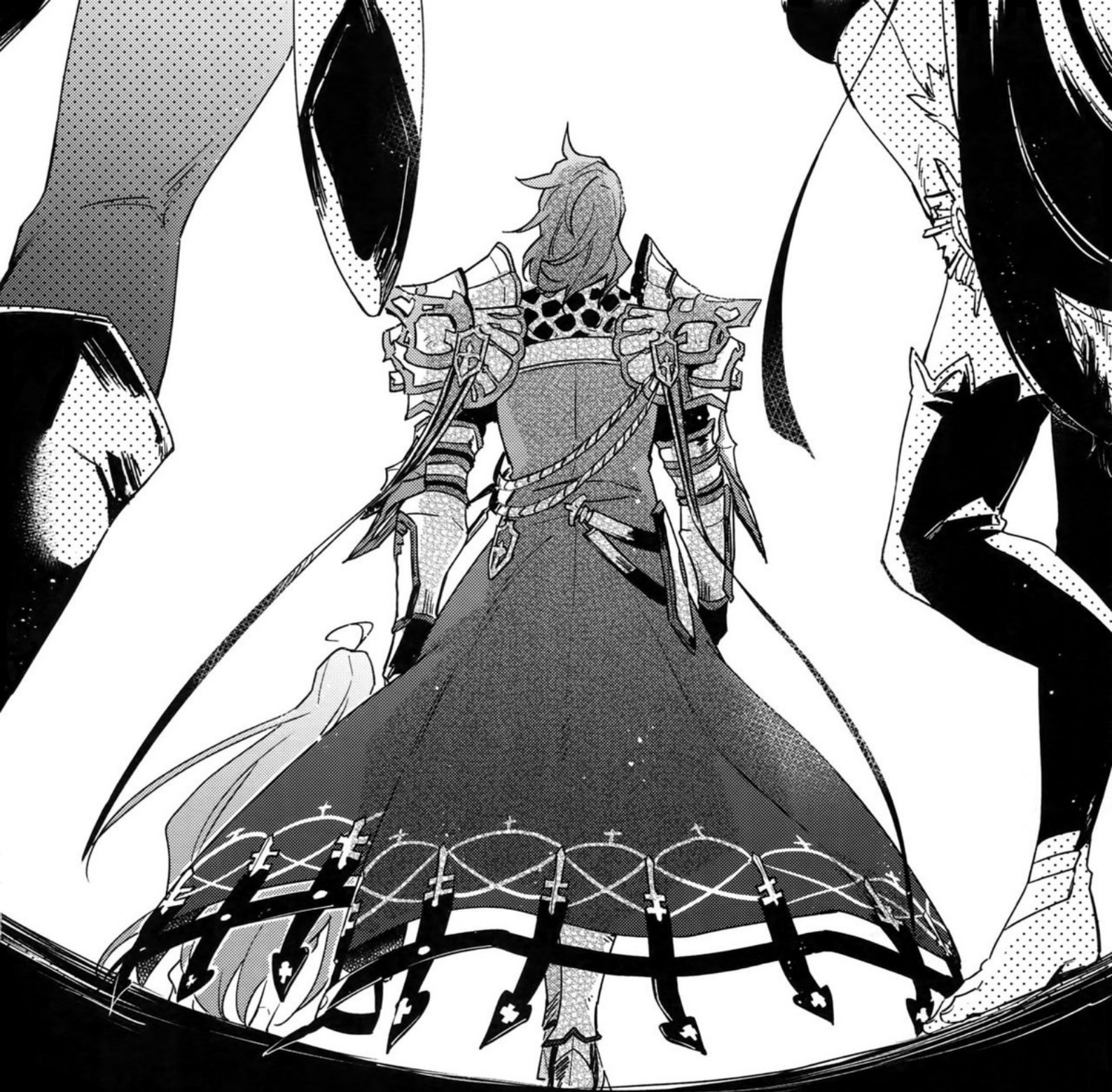
なるほどな

その様子を確かめ
何か起こっている
ようならその対応を
…と言ったところか

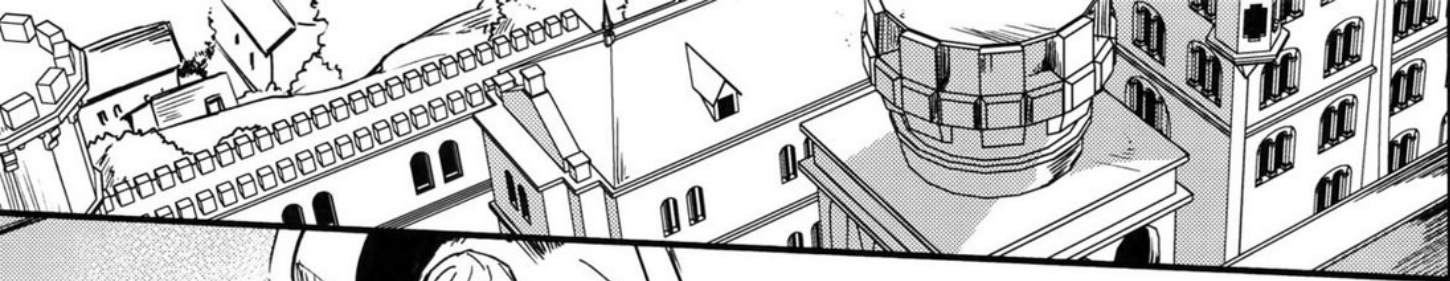
はい



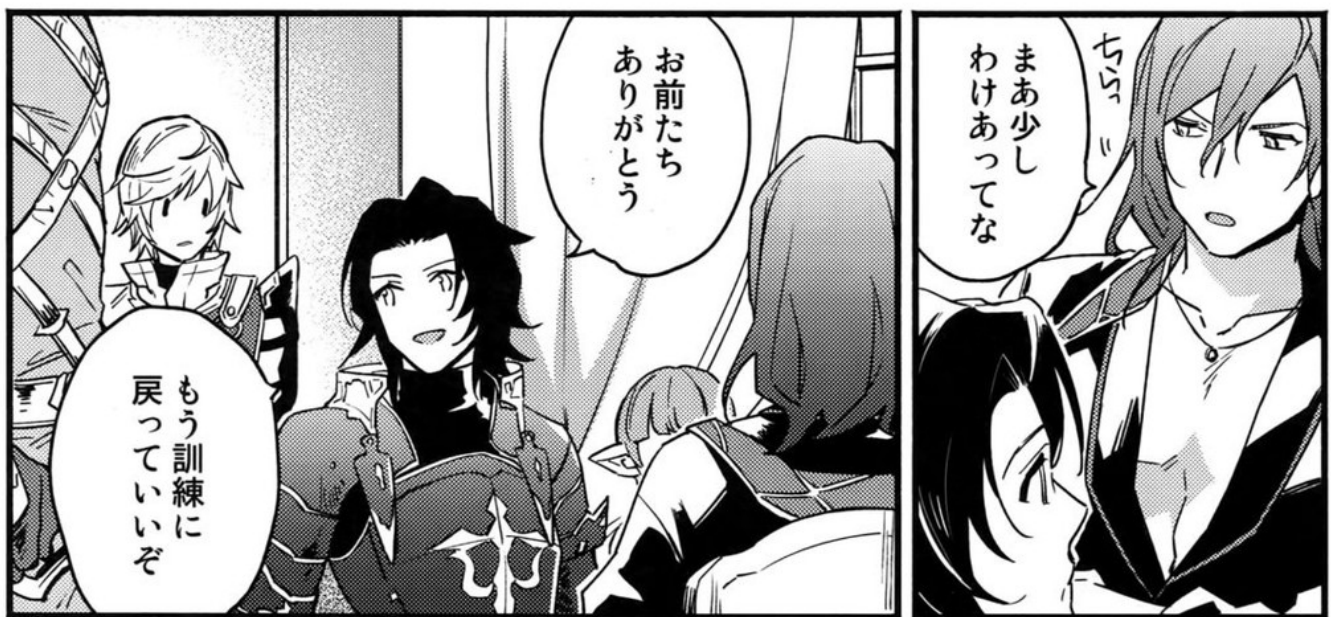
—
汝



欺瞞に
囚われては
いないか









問題は
部屋だな

期間にもよるが
来賓室は使用者を
伏せて使うには
限界がある

それは俺も
考えたんだが

お前たちの
部屋は
どうだろうか

そうだな

うえ!?

騎士団の
宿舎じゃ
バレバレだしな

だが大変
言いづらいん
だが俺の
部屋は...

ラン
ちゃん...

俺が何でか
失禮だぞ
ランスロット
お前...

まあそれが
一番人目には
つきづらいだろうな

となると
.....

ん...

えっ?

団長室

副団長室

騎士団宿舎

俺エ!?



ヴェインの
部屋はお前が
副団長時代に
使ってた
部屋だぞ

ほう…

それはなお
都合がいいな



決まりだな

え
ちよ…っ

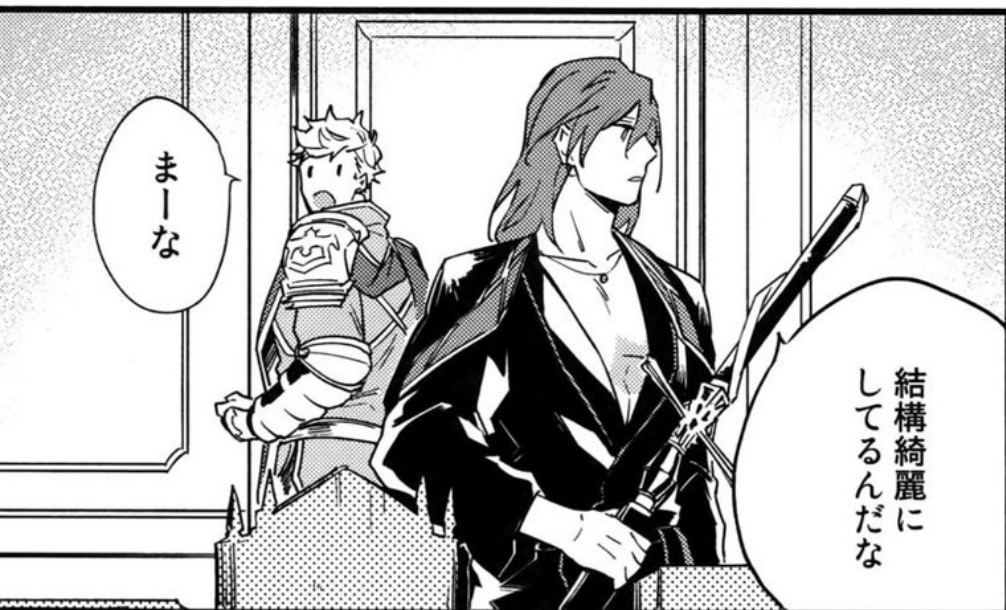


ヴェイン

……



しばらく
世話になるぞ

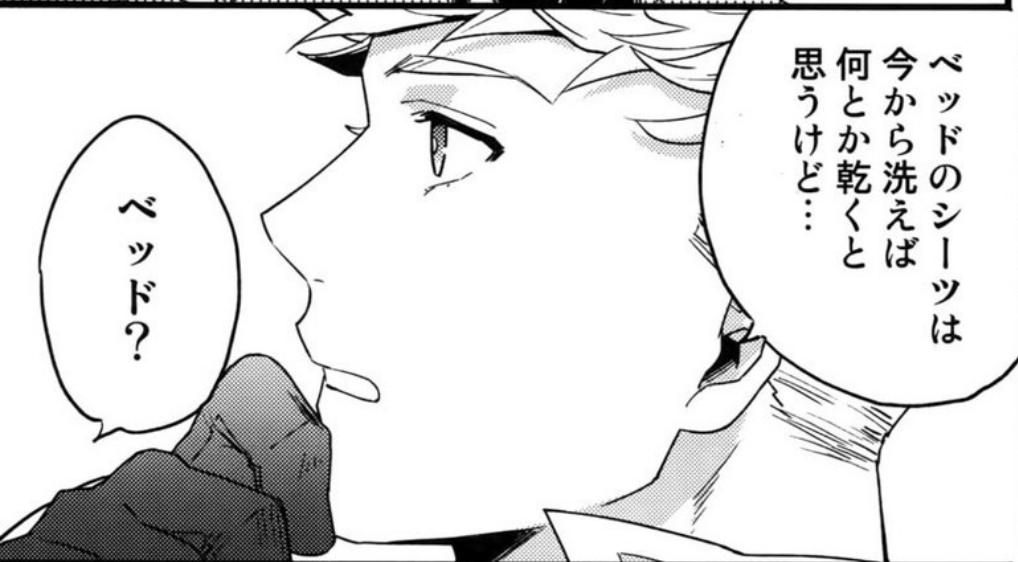


まーな

結構綺麗に
してるんだな



マジかよ…



ベッドのシーツは
今から洗えば
何とか乾くと
思うけど…

ベッド？



寝床なら
俺はここでいい

へ？

居候の身で
家主の物を
奪うつもりはない

この一角だけ
借りられれば

必要なものは
自分で何とかする

気を付けた方が
いいことがあるば
言ってくれ

…おう

お前はもう
戻っていいぞ

仕事中に
悪かったな

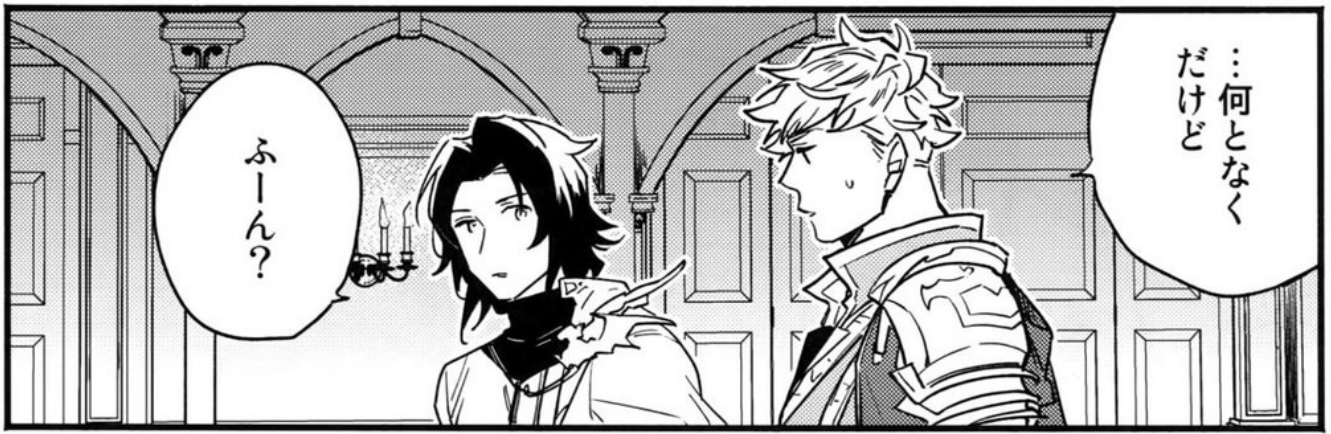
なーんか

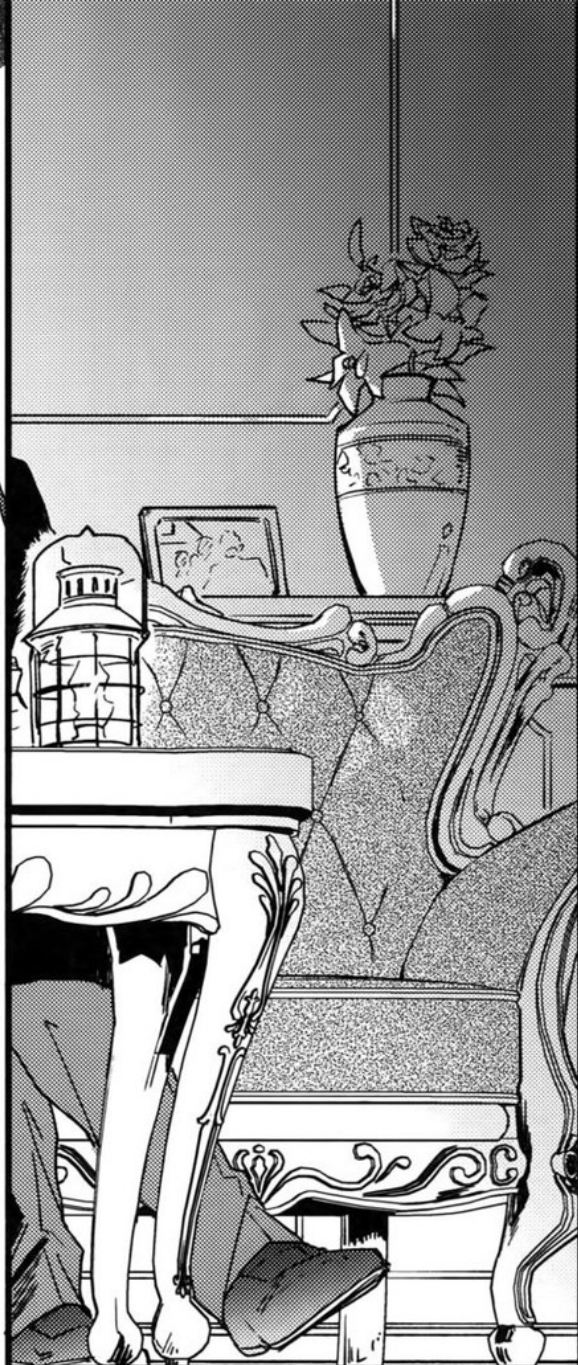
調子が
狂っちゃうな

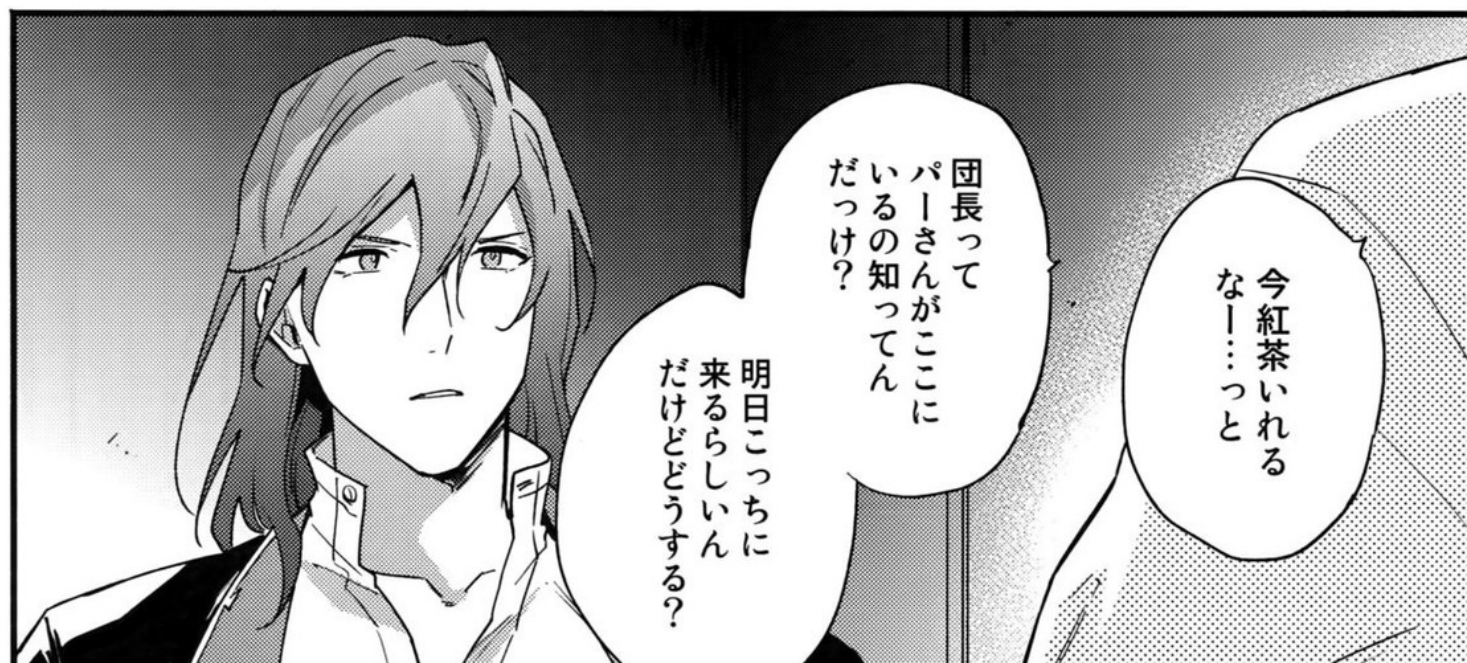














俺はいつまで
いたって
構わないけど…



はい





…迷って
いるのだ



——先日
ウェールズに行って
兄上と話をしたな

そのとき
兄上は仰った



「旅を終えたのち
戻ってこい」と

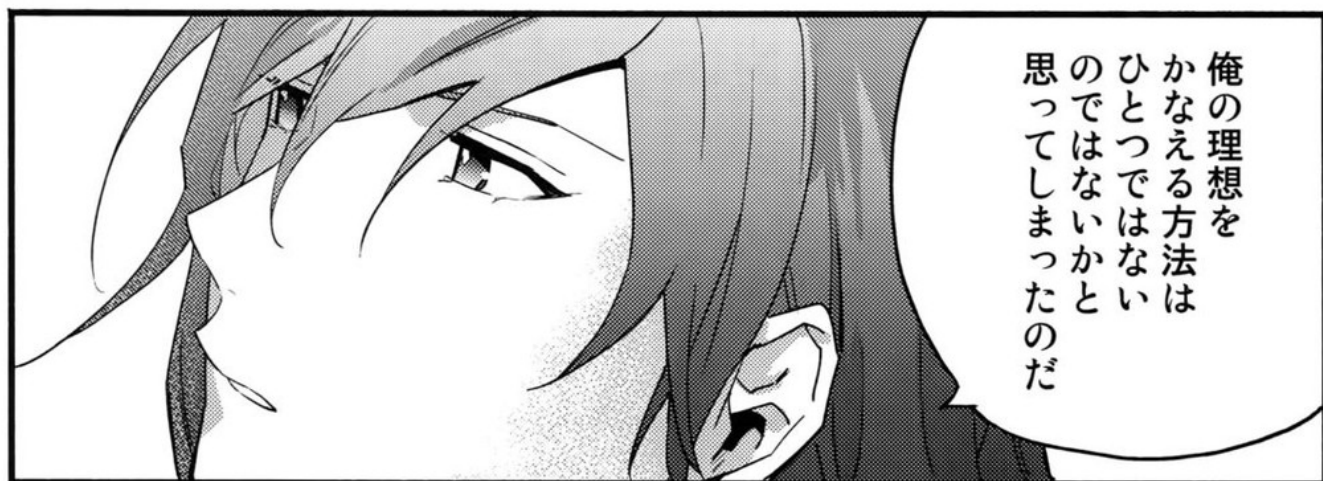


俺と
ラモラック兄上と
三人で良い国に
しよう…



思えば俺たち兄弟は
母を失ってから
それぞれ違う景色を
見ていたように思う

そこに
俺の理想の国は
ないと思っていた



今まで誰も
できなかったこと
なんて簡単には
できないし

それこそ誰も
考えつかないような
策が必要なんだと
俺は思う

だから

納得いくまで
たくさん考えれば
いいんじゃないか？

ふっ…

くくっ

お前と
きたら…

時間には
限りがあるのだぞ

なんだよー



お前の
そういうところは
好ましいと
思っている

むー！



腐るな



ったく

すぐそうやって
からかってくれる
よな



パーさん
ここに來てから
おかしいような
氣がしてたからさ



でも
安心したよ

？



そうだな…



何が…



って



お前こそ俺がいることで不便はないのか？



うん？



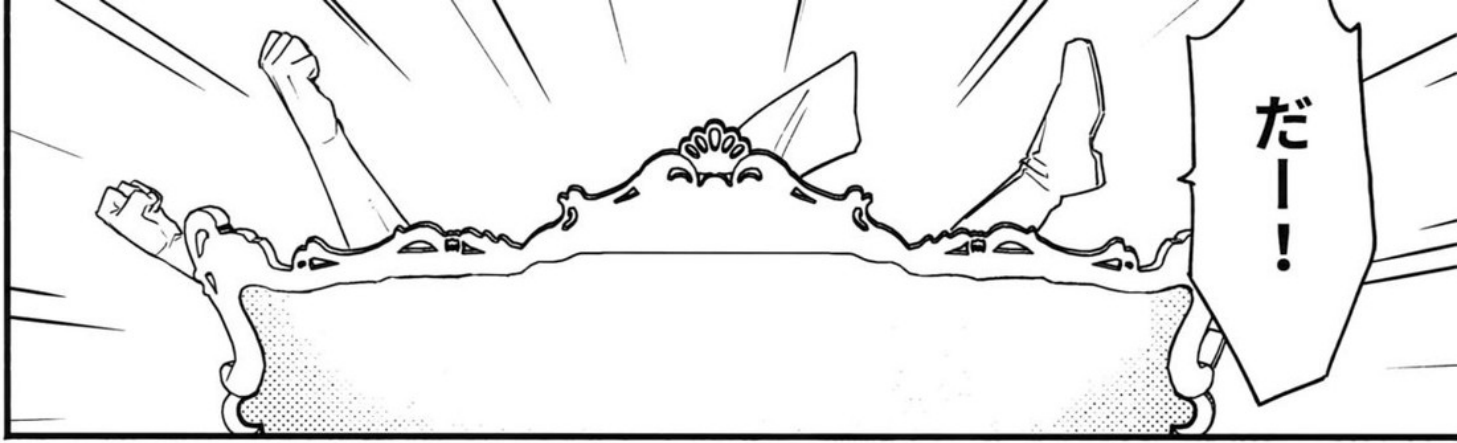
もむもむ

わーっ!!?











おう

会えて
嬉しいぜ!

全然!



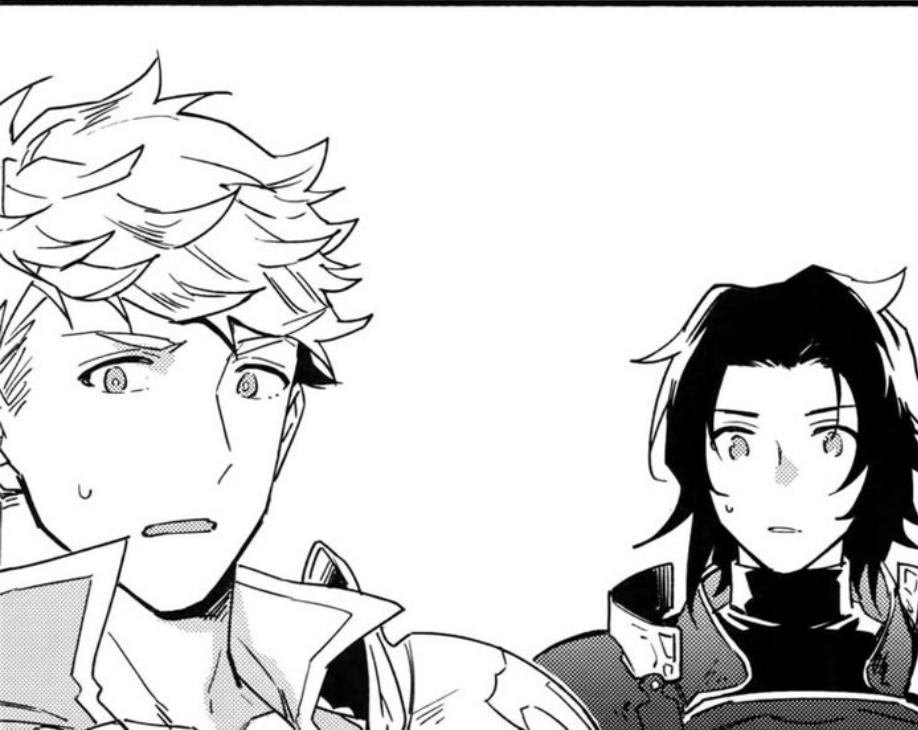
急でごめん!

近く荷物に
届ける依頼が
入ったから
少しでも
会えないかと
思っ...



...

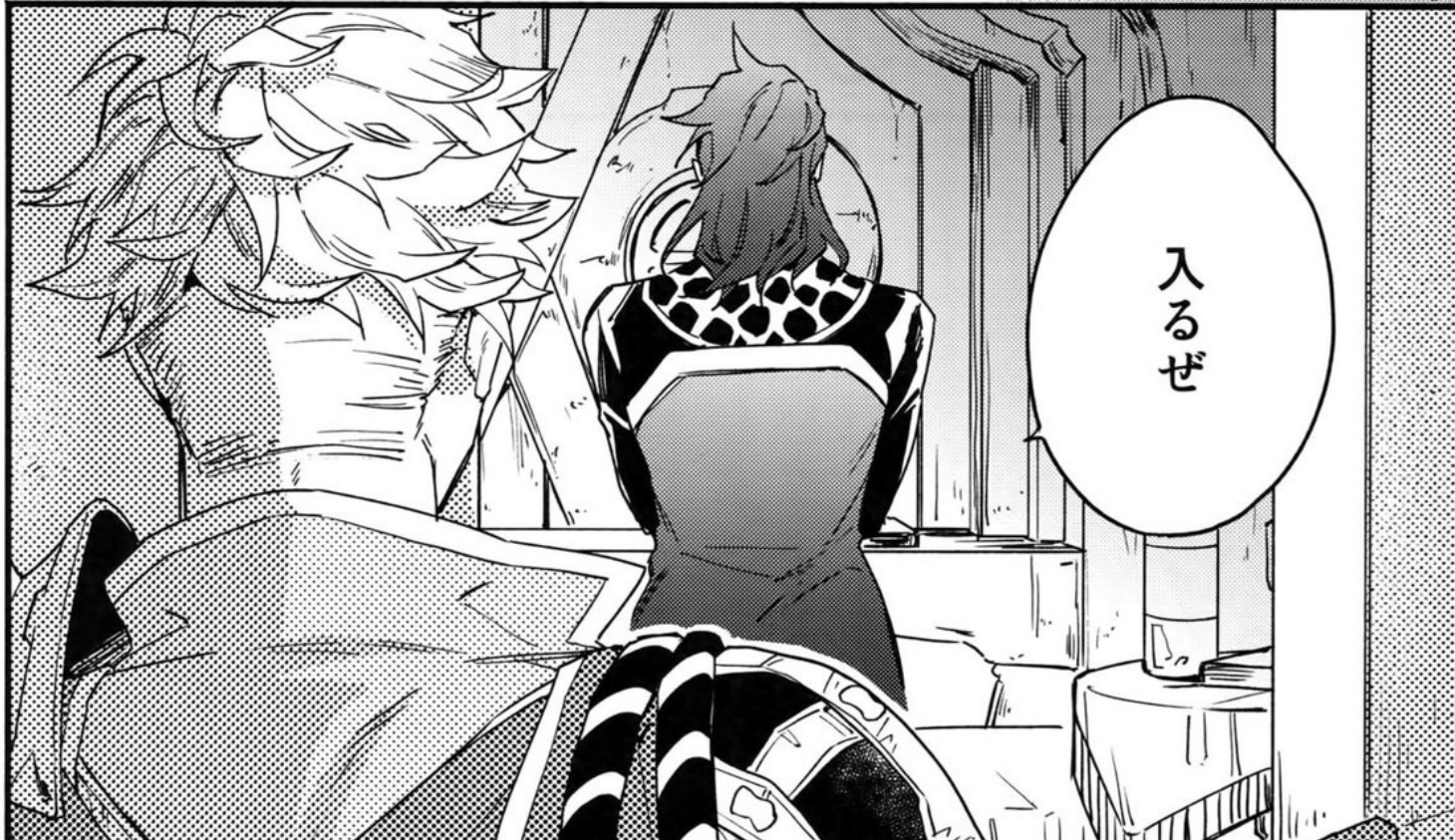
—え?



そうそう

パーシヴァルは
用があるとかで
まだ艇にいるんだ

後から来ると
思っ...









何で
パーシヴァルが
二人いるんだよ



そのような
状況なら
話さないわけ
にもいかんか…

ある島で
星晶獣の調査を
依頼された
ときの話だ

その星晶獣は
永い眠りから
目覚めたところでは
あったが特に異常は
認められなかった

そもそも討伐目的
ではなく星晶獣に
何かあれば寧ろ
助けてほしいと
いう依頼だ

俺たちは
その結果を
伝えるべくそこを
後にしようとした

だがその時
聞こえてきたんだ

声が

その声は
俺にだけ
聞こえるようで

その場を離れても
付きまとった

どんどん
大きくなる声を
押しだそうと
魔力が昂り
気付いたら……

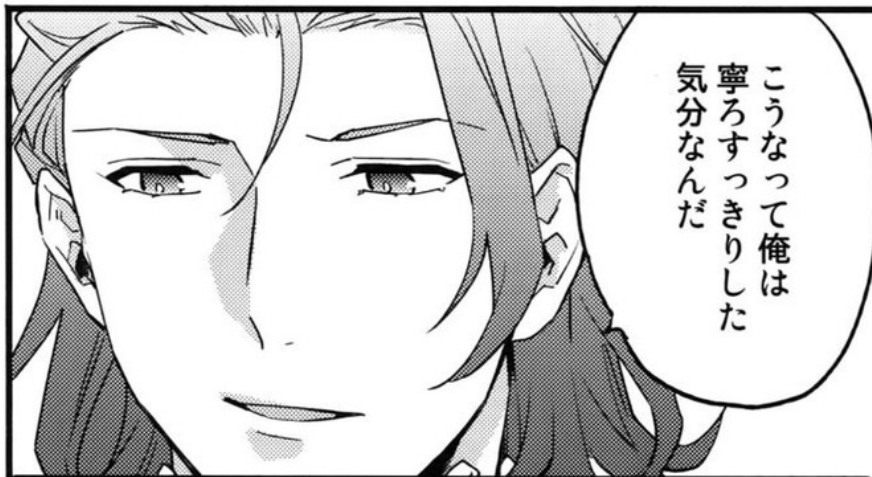


さあな

さあなって



そんなことにな
って大丈夫
なのか？



こうなって俺は
寧ろすっきりした
気分なんだ



同じ顔が二つも
あっても具合が
悪からう

俺は城へは
立ち寄らん

もう帰れ



だが俺は
一人に
戻る気はない

もうーっ
……!

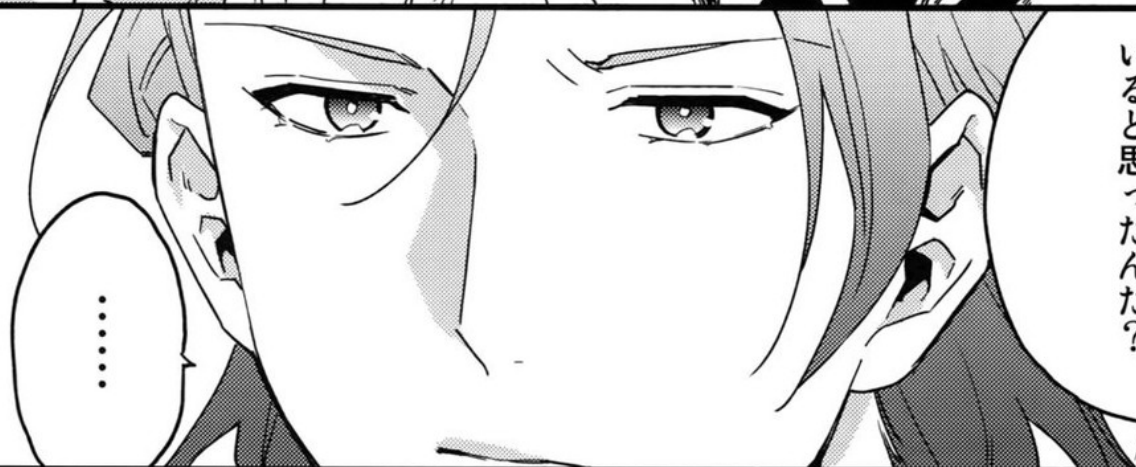


さっき
「やはり」って
言っただろ?

俺と話す前から
行き先に
心当たりがあつた
ってことだよな?



何でもう一人が
フェードラッヘに
いると思っただんだ?



……

あっちの
俺に聞け







カチャ、

帰ってこない
んじゃないって

もう消え

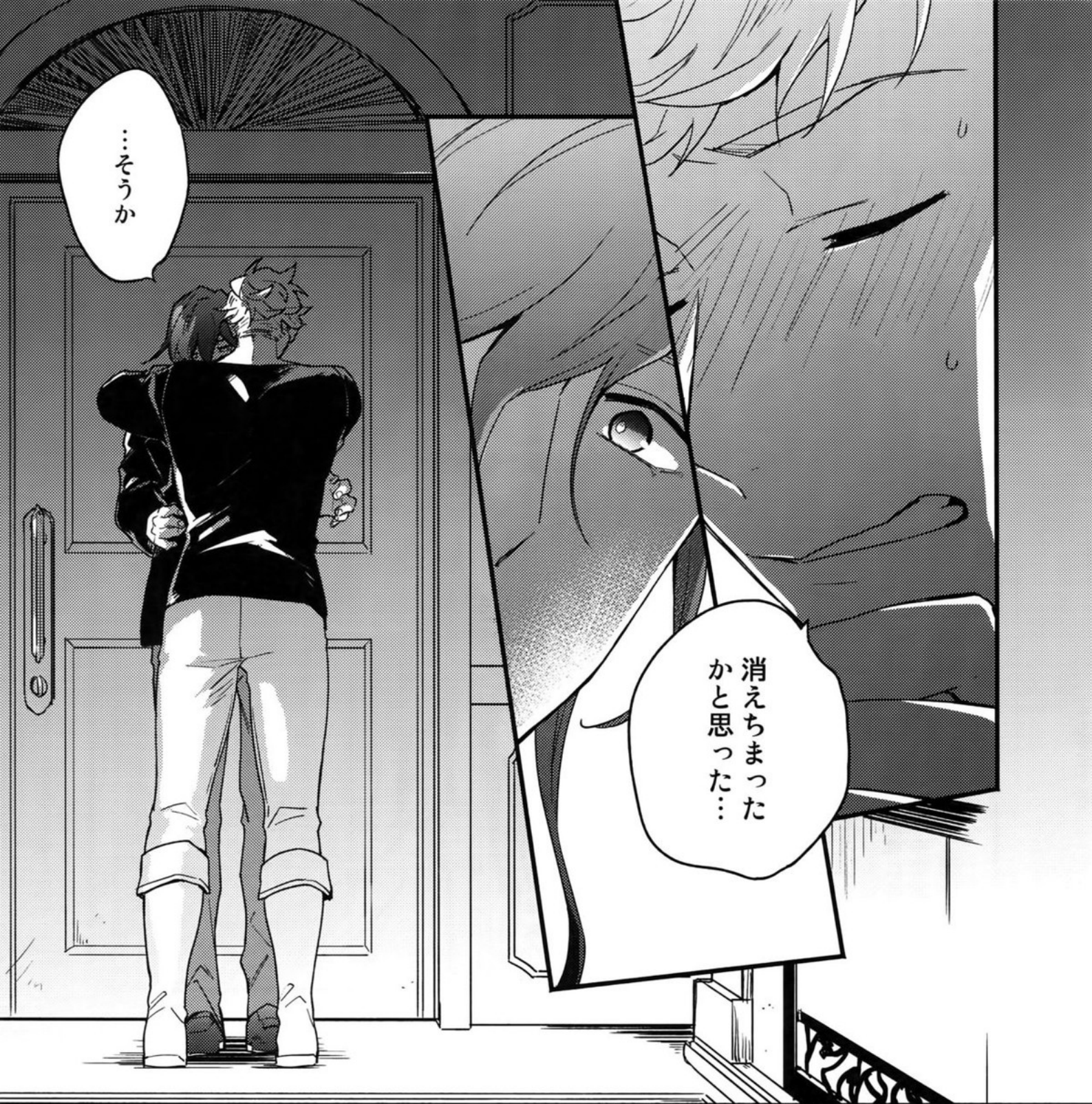
ハタ、

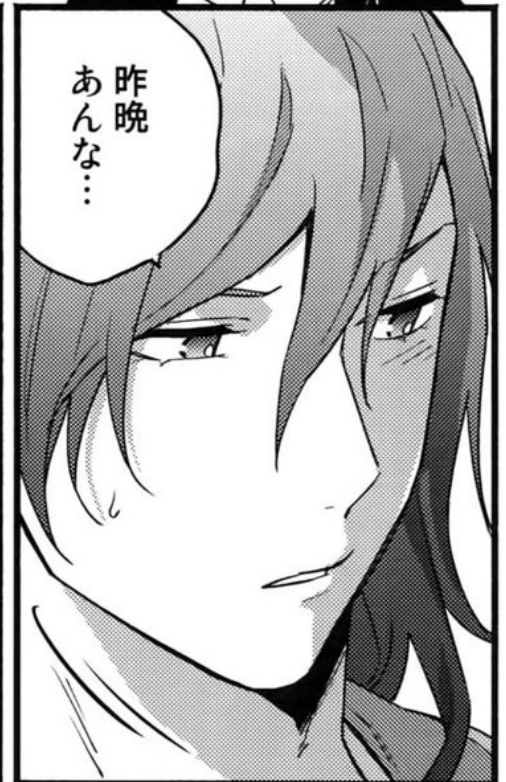
パーシヴァル……っ

急に大声を
上げてどうした

入ろうとした
ところで
驚いたでは…









...言わないと
わからんか
...?

うん?

お前のことが
好きだからに
決まっているだろう

...





お前はこと
自分に関しては
鈍すぎるくらいが
ある



う…



本当に泊めてる
礼でしたとか
じゃなくて



まあでも
良かったよ

?



パーシヴァルに
限ってないとは
思ってたけど

ほっとした
っつーかさ

お前
そういう…

ん？

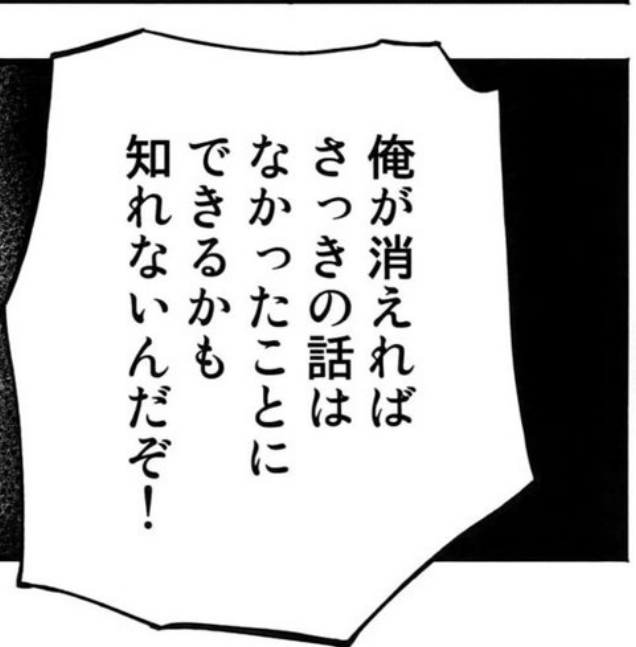
……
何でもない

もしかして
フェードラッへに
来たのもそれで
……？

……

……
そっか…

——決めたぜ





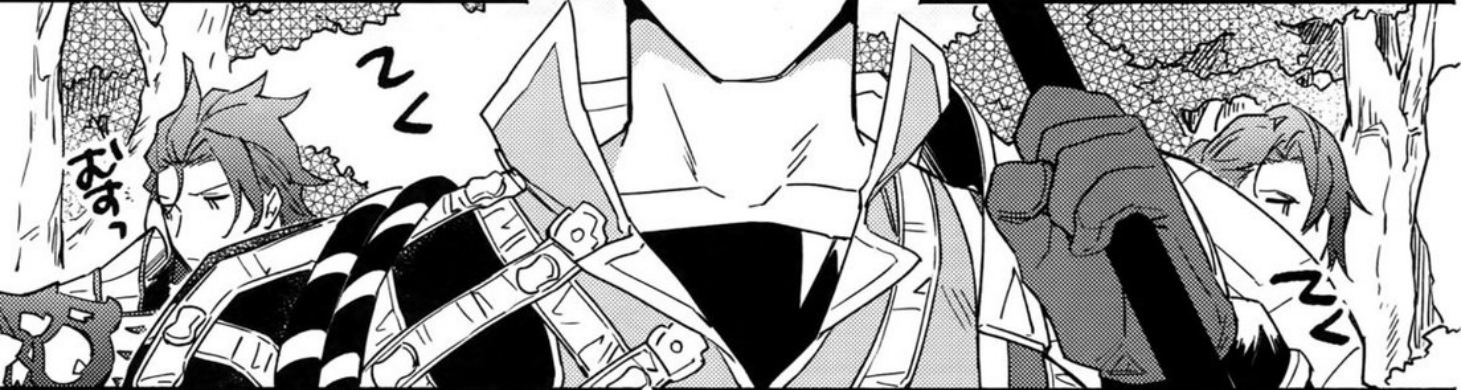
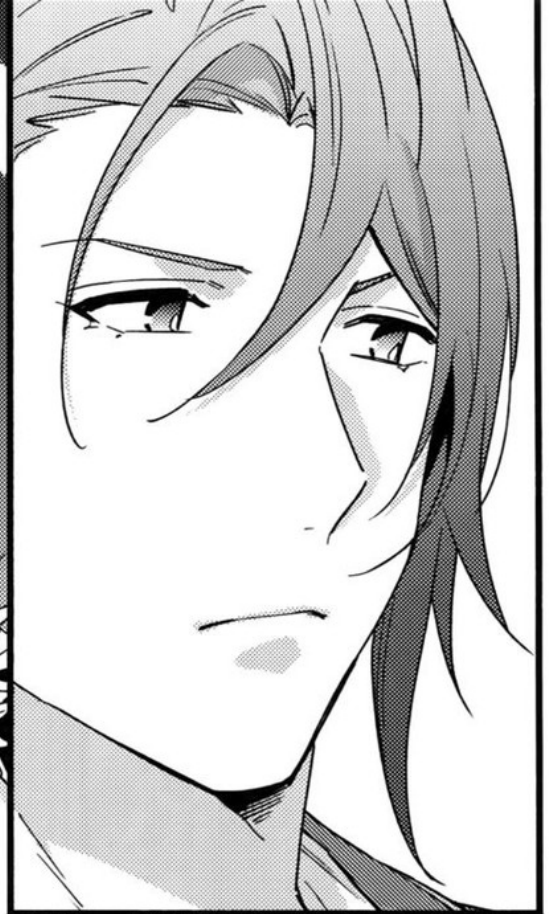
だったら余計
行くっきゃ
ねーじゃん

ザッ

ザッ



わかってたとは
言えすげー図
だな

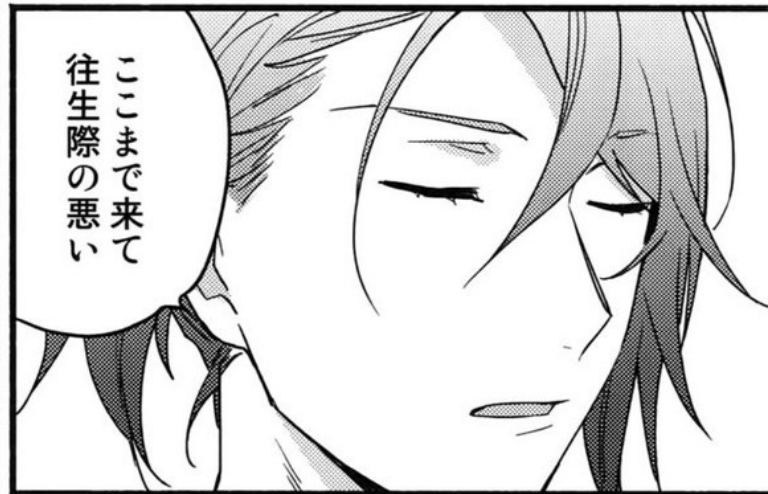


だって普通に
頼んでも来て
くれないだろ

当然だ



団長を
抱き込むとは
考えたものだな
俺は商人の護衛
依頼と聞いたん
だが？



ここまで来て
往生際の悪い



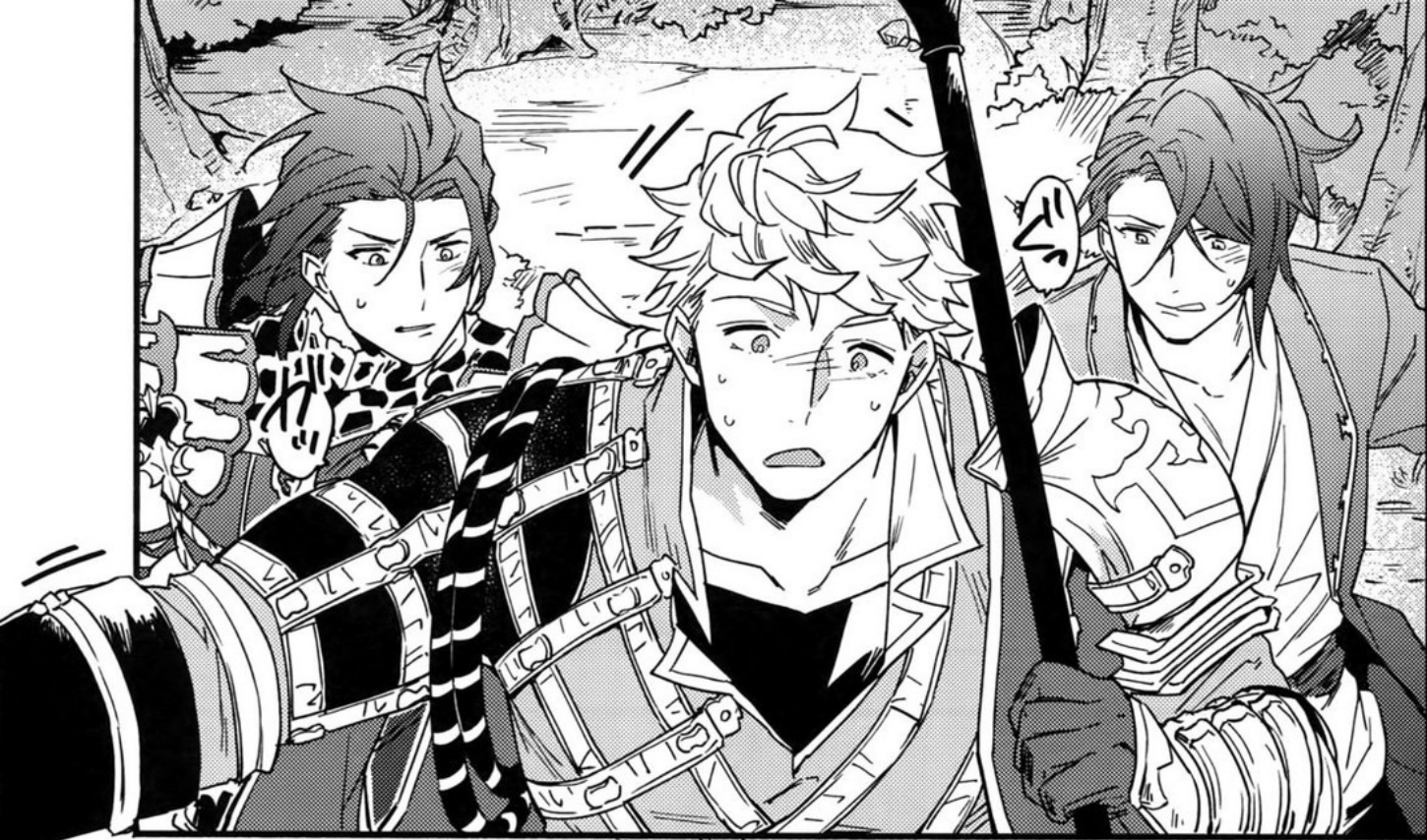
さては貴様の
入れ知恵だな…？

まあまあ…
い



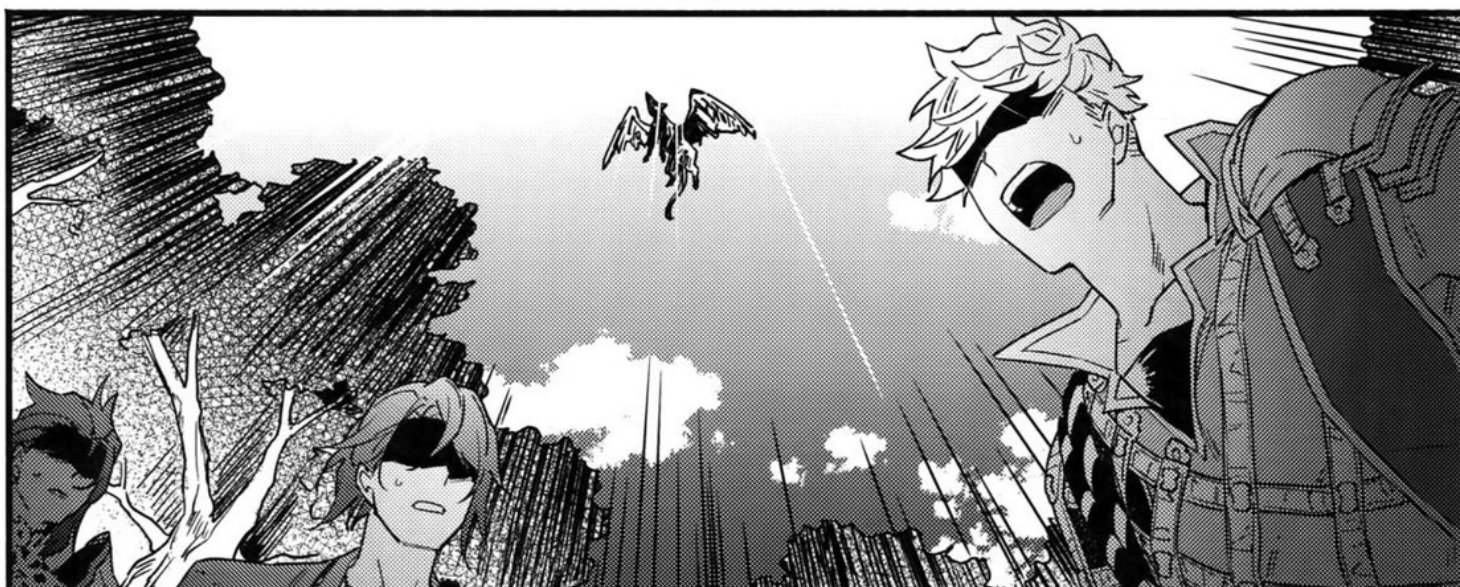
待て
ヴェイン

そっちでは…



やっぱりどっちも
パーシヴァルだな
って思ってたさ

何やら
騒がしいな



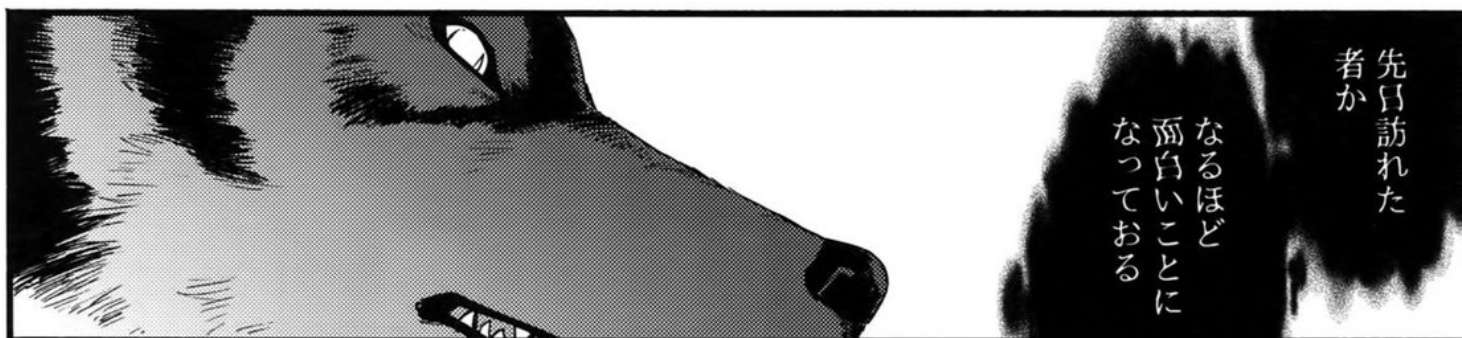


これが

星晶獣
マルコキアス
——！

我に何か
用か？

人間



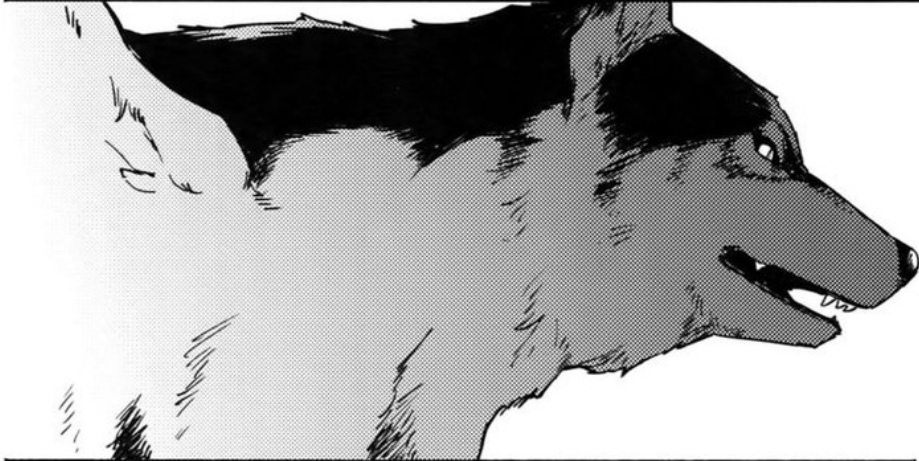


『欺瞞』





その者が
騙そうとした
のは自分自身



自身に芽生えた
迷いを弱さと
決めつけ偽り

我が問うた末
それらすべてを
切り捨てた



こうなって俺は
寧ろすっきりした
気分なんだ

迷っているのだ

俺が
さっきの話を
なかったことに
できるかも

——
そういう



もっとも実体と
なるような者は
初めて見たがな

余程強い火の
魔力を秘めて
おるのだろう

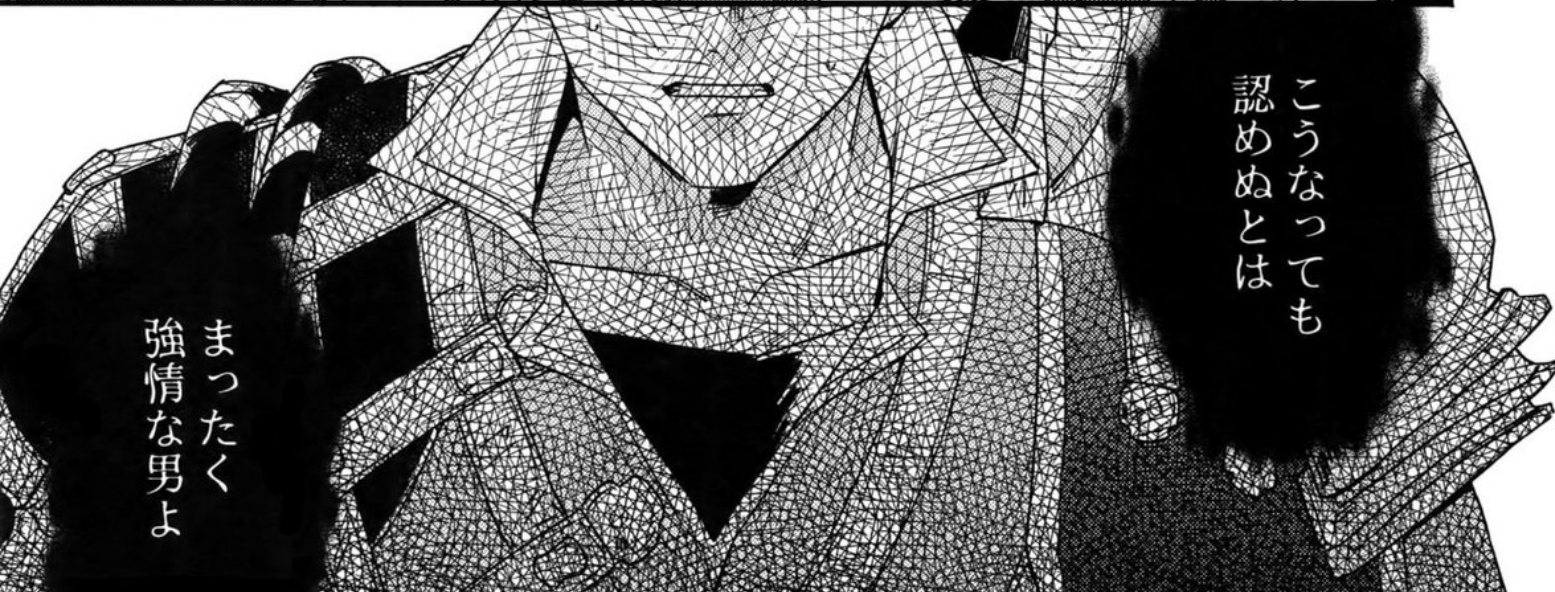


ことかよ
——!



見よ

半身はもう
消えかけて
おるぞ



こうなっても
認めぬとは

まったく
強情な男よ



待ってくれ!



何を

駄犬
……?

でも

俺は

こいつが頑固で
素直じゃないこと
くらい知ってる
……!

背負ってるものが
大きければ
戸惑うのだって
当然だ



それを他人に
さあ今決めろって
急かされたって
できるわけねえだろ

俺はこいつが
最後にはちゃんと
答えを出せるって
信じてる！

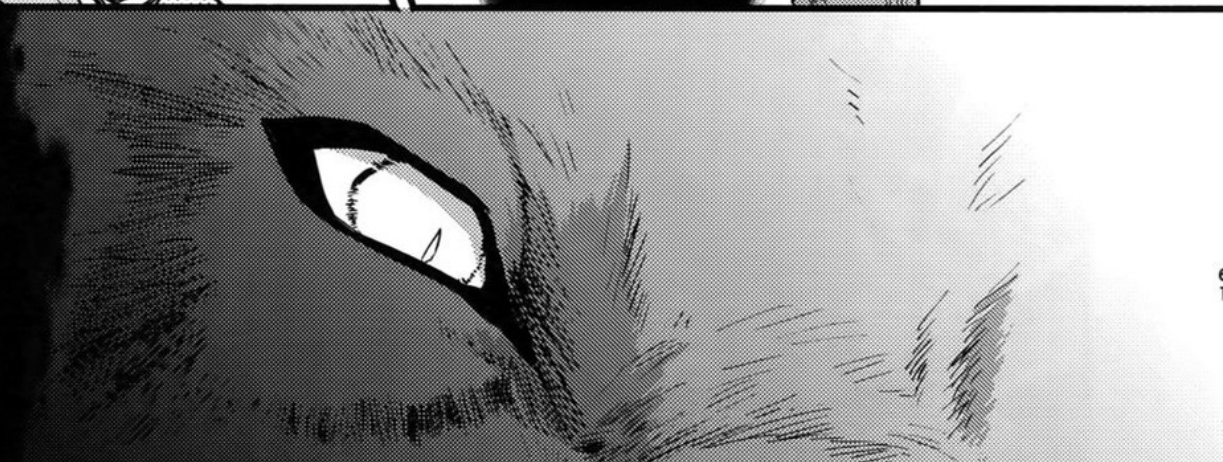


飽くまで
戻せと
言うか

当人が
望んで
いなくても



ああ……！

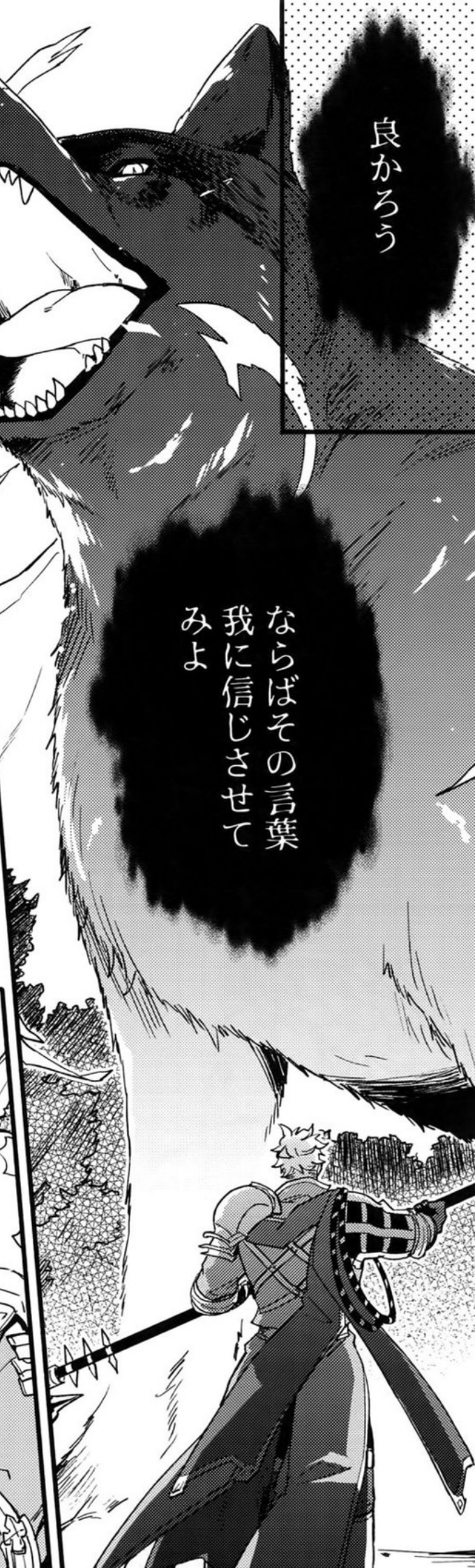


偽りのない
良い目を
している

良からう

ならばその言葉
我に信じさせて
みよ

その方が話が
早くていいぜ





カッ

ッ

ッ

ッ

っしやあ

ッ

ッ

キッ

ッ

ッ



パーシヴァルが
好きだからに
決まってるんだろ!!

オ

本当に
それだけか…?

…そんなの

オ

ゴゴ



ああ

見てられん





パー...

シヴァル...?



意識を
——手放しながら

もう顔も
はつきりとは
思い出せないけど

俺は両親の夢を
見ていた気がする

二人は
笑っていた



治療は
かけてもらったが
痛みはないか…？

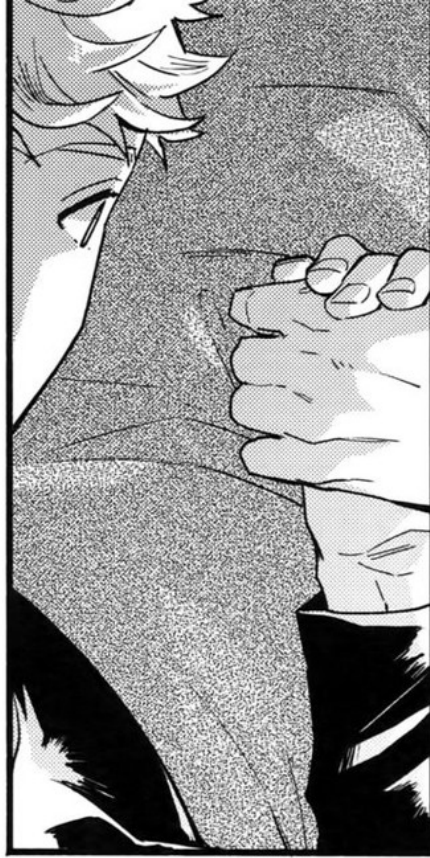
や
平気

...

なに
笑っている

今度は
失わないで
済んだなって

…っ



それはこっちの
セリフだ

…馬鹿



……



手握って
魔力わけて
くれてたんだ…？



お前戦闘中の
あれは何だ

好きって
言ったやつ？

…ああ





パシヴァルに
触られた時も

好きって
言われた時も
全然嫌じゃ
なかったんだよ

それどころか
俺にだけなんだと
思ったら嬉しくて

言ってみたら
自分でも
びっくりするくらい
しっくりきちゃった

…おい

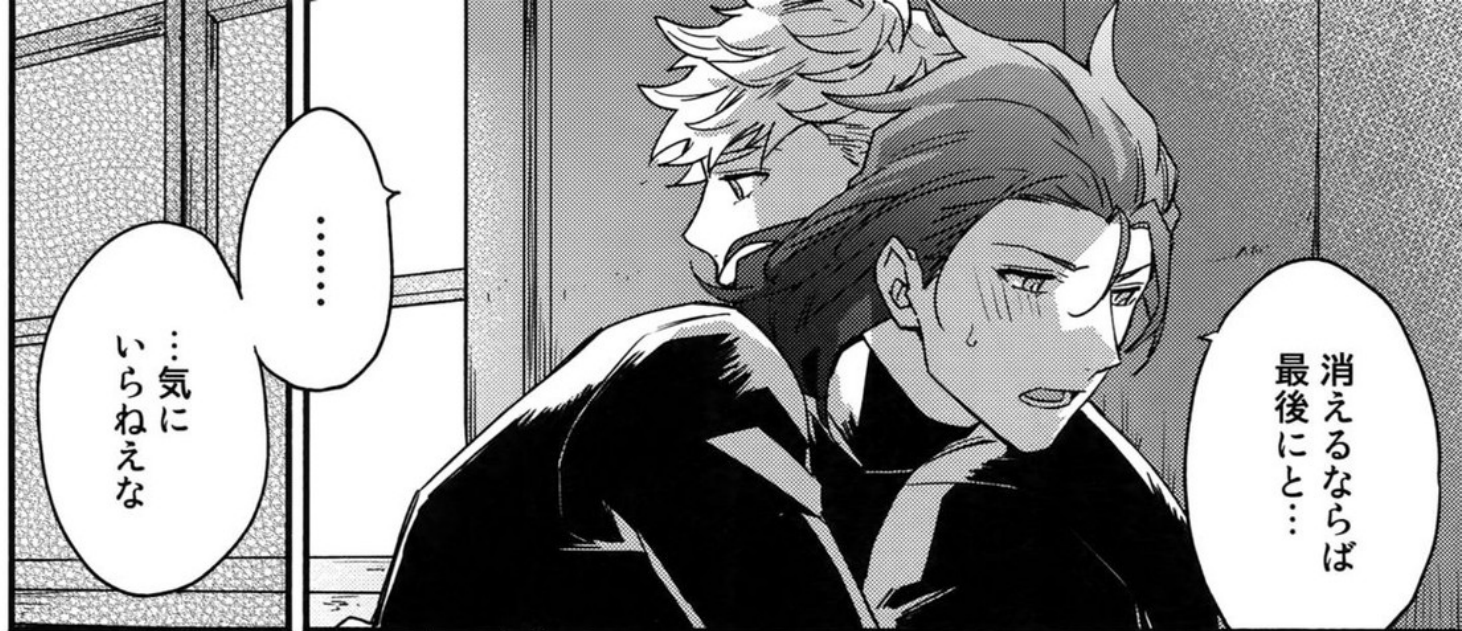
…どさくさに
紛れて何を
している！

乗せるな！
脱けな！

もっと信じて
もらおうと
思ってた

だってこういうこと
期待して俺のちんこ
触ったんだろ？

ちんこ
あれは…



パーさんが
上した
かった？

そういう
ことでは…

どっちでも
いいなら
勝手にするぜ？

すっ
てん

…っ

そうじゃ
なくて性急
すぎるだろう

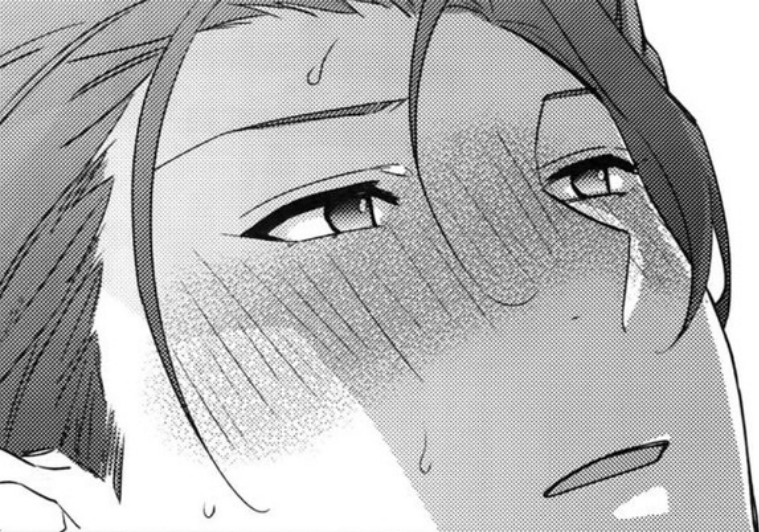
んー？

っ
う

変なところ
舐めるな…っ







勝手に最後に
すんなよ



これは最初
だからな



みんな相談
すれば一緒に…



団長とか

ランちゃん
とジークフリート
さんとか



その…

一人で抱え
こまなくても
俺もいるし





もう俺は
何ひとつ
手放す気はない

むろん
お前もな



覚悟しろ

ああ！

お疲れ様でした。
以前から考えていた話をようやく本にできました。

個人的にはパーシヴァルは必ずしも王様にならなくてもいいと思っていて、あくまでパーシヴァルの目的は「弱い立場の人を守りたい」というところなのでそこさえ間違えなければ手段は別でもいいのではないかと…
最初好きになったときは貴族だと思っていたんですが、年数経過するうちに国有地持ってる王族なのでは…？ってなってしまい、無理に建国する必要があるのか疑問がわいてきまして…アグロヴァルのフェイトで弟たちに戻ってきてほしそうでもありましたし。

それにそんな途方もなくスケールのでかい夢を持ってるパーシヴァルには好きな相手を諦める選択もしてほしくないなあとハッピーラブ教の私が囁いてたのでこんな風になりました。
まだまだ補完や補足したい部分や展開急かなと思うところはあるのですがちゃんと伝えたい部分が伝わっているといいなあと願うばかりです。

ちなみに今回星晶獣として登場させたマルコキアスには設定的にもビジュアル的にも元ネタがあります。有名なソロモン72柱が原典だしグラブルもそこが元の星晶獣は出てくるのでいずれ全然違うビジュアルで登場することもあるかもしれないかもしれませんが、そのときは笑ってください。

ここまでお読みいただきありがとうございました！

【発行日】2019/10/13
【印刷】株式会社ブロス
【発行】週休五日制/塔夜綴/pixiv ID: 610328/ 0shiki@mail.117.cx

※本書のネットオークションへの出品・無断転載・複製はご遠慮ください。



SONOTEGA

GRANBLUEFANTASY

UNOFFICIAL FANBOOK #18

2019/10/13

TSUKAMUMONO

Presented by 週休五日制